



いく。埼玉県での道路陥没事故により、下水道施設の維持保全が喫緊の課題であるという認識が広まった。非開削技術が有効と考えるが、部分補強・補修技術も期待されているので実績を重ねていく。さらに人手不足解消を目的に、機械化施工や省力化工法の開発にも取り組んで参る」と挨拶した。

続いて議案審議に入り、上程された議案はすべて可決承認された。新年度の事業計画については、人手不足対策としてマッチングシステムの登録会社増加に取り組むほか、技術委員会活動の活性化や独自資格認定試験開催による技術者の育成、コンクリート防食技士資格所有者の増加などを挙げた。また、技術研修会やセミナーの開催、コンクリート防食技士資格の市場啓発などにも取り組む方針を掲げた。

当日は、同協会管路部会の総会も開催された。井上敬介部会長(日本ジッコウ)が「近年、地震動レベル2の地震が増加傾向にあることから、既存施設の耐震性向上は避けられない。当部会はインフラの維持保全に貢献

するため耐震性の高い技術を開発し、普及活動に取り組んで参りたい」と挨拶した。

続く議案審議では、上程された議案はすべて可決承認された。新年度の事業計画として、展示会出展、会員を対象とした研修会開催や施工アニメーション作成などを挙げた。そのほか、人手不足対策を目的としたマッチングシステムを再構成して、交流型サイトに変更する方針も掲げた。

下水道保全にさらに注力

JER補改修協会

JERコンクリート補改修協会は8月5日、東京・江東区の東京ベイ有明ワシントンホテルで定時総会を開催した。

冒頭、佐藤匡良会長(日本ジッコウ、写真)は「中東情勢の影響で厳しい状況は続いているが、品質低下は許されない。防食業界を牽引してきた自負を忘れず、発注者側の期待に応えて